

ケアマネ通信

No. 55

発行：令和 7年 2月 21日

事務局：東町わたや薬局内

担当： 畑田圭介 古賀咲子 森麻美

TEL：0942-81-3039

FAX：0942-81-3053

鳥栖地区介護支援専門員協議会

事業所内での回覧をお願いします！

1. 会長挨拶



鳥栖地区介護支援専門員協議会 会長 大石 良美

会員の皆様には、希望に満ちた新春をお迎えのことと心からお喜び申し上げます。鳥栖地区介護支援専門員協議会への活動に対し日頃よりご協力して頂き感謝申し上げます。さて、今年は介護業界でいわれてきた2025年問題の年となります。75歳以上の人口が一気に増えることを危惧して生まれた言葉であり、介護業界にとっても大きな影響を受けると考えられています。介護職員や私達ケアマネジャーも含めた人材不足などの懸念がありますけれど私達ができることを今後も継続して行っていけたらと思います。協議会として、介護支援専門員が鳥栖地区で働かれた際になんでも相談しやすいような横のネットワークづくり等取り組んでいけたらと考えております。またご本人様が住み慣れた場所で自分らしく生活を続けていくために市行政並びに各地域包括支援センターや専門職が協働し多職種と連携していきたいと考えております。

本年も鳥栖地区介護支援専門員協議会へのご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様方のご健勝・ご多幸を心からご祈念申し上げまして新年のご挨拶といたします。



2. 第2回 全体研修会 報告

開催日時：令和6年10月10日

居宅介護支援事業所 なかばる紀水苑 吉野ゆかり

『自然災害BCPの実施に向けて：災害対策机上訓練』

講師： みやき町地域包括支援センター 主任介護支援専門員 牛島 久厳先生

ケアプランセンターお元気リボン 災害支援ケアマネジャー 朝長由美子先生

鳥栖地区介護支援専門員協議会の今年度第2回全体研修が10月10日に鳥栖市役所にて開催されました。

感染症、自然災害は、いつ身近で起こってもおかしくない状況に変わってきていると災害のニュースを観るたびに感じています。これらを受け防災意識も高まってきてはいるが、日々の備えが実践で活かせる備えであるかは皆さんも不安の残る所であったと思います。

講義の中に、「なぜ研修やシミュレーションが必要なのか」……。自分自身・家族・職員の命を守るため、緊急時の混乱を最小限に抑えるため、減算にならないため、できることから始めていきましょうとありました。

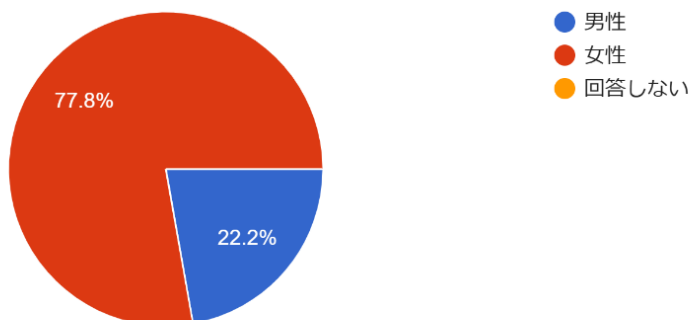
最初は減算にならないためからでも、災害の事を理解していく取り組みには充分ではと感じました。今回のような研修を重ねていくことで災害を理解し、実践で活かせるものとしていくための計画ができるのだと感じます。また、研修で学んだ事を事業所に落とし込んだ研修やシミュレーションにより事業所全体での理解に繋げていくことの大切さも学びました。地域と連携して作りあげていくことで被災しても混乱を最小限に抑えられる災害支援を目指して取り組んでいきたいと思っています。



令和6年度 第2回研修会アンケート結果 R6.10.10

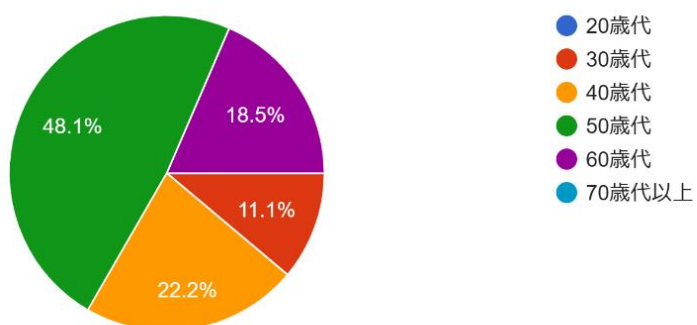
性別

27件の回答



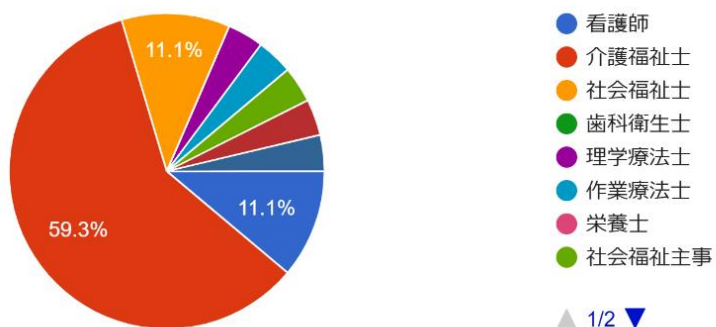
年齢

27件の回答

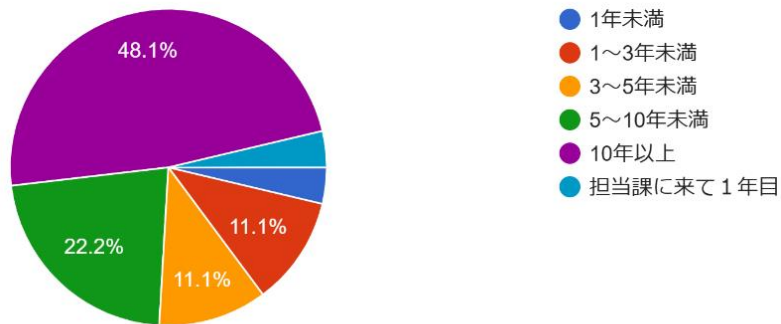


基礎資格

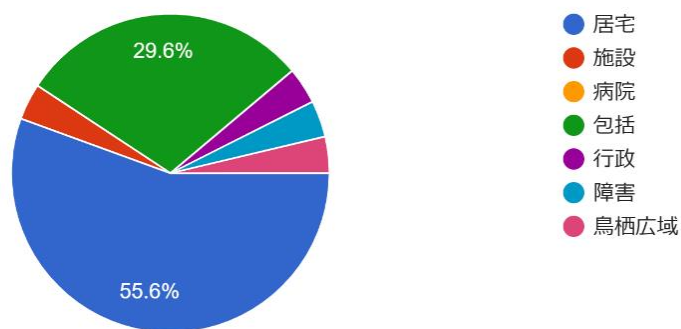
27件の回答



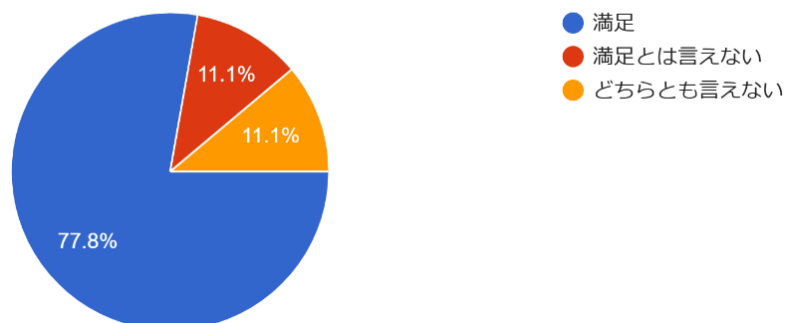
経験年数
27 件の回答



勤務先の事業所種別
27 件の回答

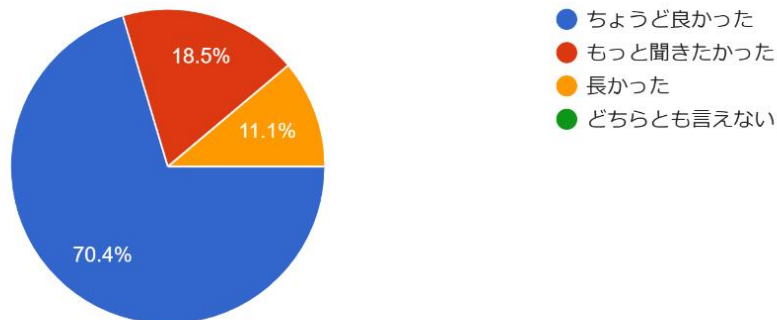


本日の研修内容の満足度
27 件の回答



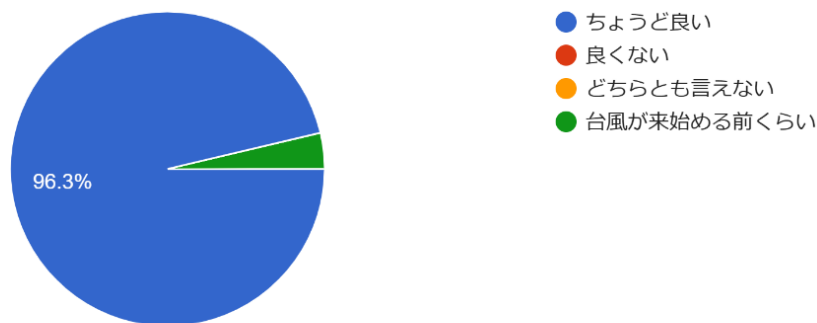
本日の研修時間

27 件の回答



研修日時

27 件の回答



本日の研修内容についての意見や感想をお聞かせ下さい

- ・ 障害でもやっていきます。
- ・ BCPの重要性はわかっていましたので、内容を聞こうとしていましたが、周囲の声とマイク音が反響して聞き取りづらく、集中できませんでした。
- ・ BCPをどのように進めていいかわからない事だらけでしたが少しだけ理解できました。ただ事業所での進め方が難しいですと感じています。
- ・ 実際 災害時どんな対策 準備しておくべきかがわかった
- ・ 音響のせいか話が聞き取りづらかった。内容に対して人数が多く、講師の方が大変そうだった。
- ・ 難しかったので、また機会があれば勉強したいと思います。
- ・ 途中、何をどう考えるかわからなくなってしまった。震度7の想定は全く想像ができないのではないだろうか。災害を想像出来る身近な災害の想定でのシュミレーションだともっとディスカッション出来たとかんじた。とはいえ、大変有意義な研修でした。ありがとうございました。
- ・ 他事業との連携や内容確認もできて、今後の業務に役立つと思った
- ・ 災害なので前触れなく当日に講師から指示が出て作業するのが机上訓練として面白かった

- ・BCPを再確認しようと思います。
- ・机上訓練をしたことで災害起きたらどんな阻害要因があるか等考えることで今施設として不足している部分が理解できた。
- ・災害が少ない地域に住んでおり、危機感の低さを反省しました。職員の安否と、利用者の安否確認対応を想像するのが難しかったです。
- ・日頃からの備えや訓練が大切と改めて感じました。研修のながれや説明も分かりやすかったです。
- ・事例を交えての座学がわかりやすく、シミュレーションを事業所の方々と実施し、課題を洗い出すことができ、良かったです。是非次回も受講させていただきたいです。ありがとうございました。
- ・全体の流れは、何となくわかりましたが、自分の事業所でとなると、どういう動きをすれば良いのか分からないことが多いと思いました。
- ・机上訓練を行った事でシュミレーションが出来て良かった。皆が被災していると考えたと暫くは混乱している状況なので、医療の必要な人等優先順位を考え行動していく様に心掛けたい。

今後の研修で取り上げて欲しいテーマや講師の希望があればお聞かせ下さい。

- ・業務の効率化を図って生産性を上げる仕事のやり方について
- ・感染症や虐待も含めて研修の継続をお願いします。
- ・障害のサービスについて研修があればと思います。
- ・ローカルルールのある方
- ・今回は運営基準減算にかかわる内容だったため現実的だった。今後も運営基準に関する研修は参加意欲が高まると思います。



3. 第3回 全体研修会 報告

『カスタマーハラスメントの研修』

介護老人保健施設 アザレア 福田陽一

カスタマーハラスメントの研修を受けて、介護事業所のカスハラが増加傾向にあり長期化しやすいと感じています。2000年から始まった介護保険も時代とともに複雑化しており、利用者・家族の考えや要望も増えてきていると感じています。そのため多少の無理をしても要望に沿えるようにと努力している現状があります。

実際、私も過去にカスハラを受けたことがあり、私以外の職員も泣き寝入りする場面を何度も目撃してきました。当時は、私が我慢すれば済むことだと諦めていましたが、今後は業務に対して、きっちりと線引きをして、できることできないことを精査し、過剰なサービスに繋がらないように気を付けていきたいと思います。

今回の研修で、カスハラの対応として事業所全体で取り組む姿勢が大切だと学びました。もし、カスハラが起こった場合でも安心して働けるような環境を整えていくため、事業所としてマニュアル等、統一して出来る対策を講じて備えていくことが大事だと思いました。

また、二次被害を起こさないように職員同士で気を付けていかなければならないと思います。

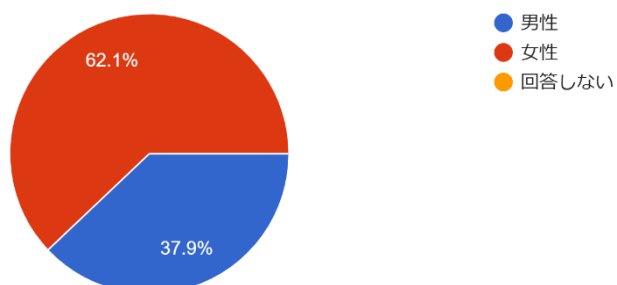
カスハラがなくなれば、みんなが働きやすい職場になることは誰もが分かっています。そのため研修を通して、カスハラに対する指針や、カスハラへの理解が広まっていけば過剰に恐れることはないと思えるようになりました。今後カスハラを受ける職員が一人でも減っていくような職場になるように努めてまいります。研修ありがとうございました。良い勉強になりました。



令和6年度 第3回研修会アンケート結果 R6.12.11

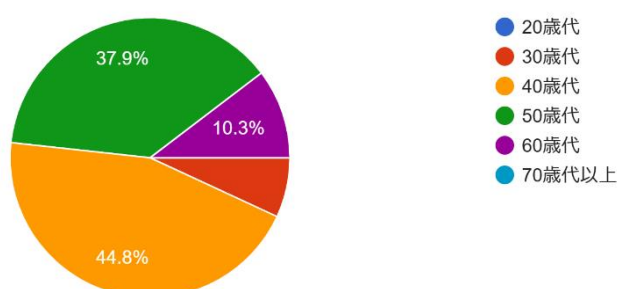
性別

29件の回答



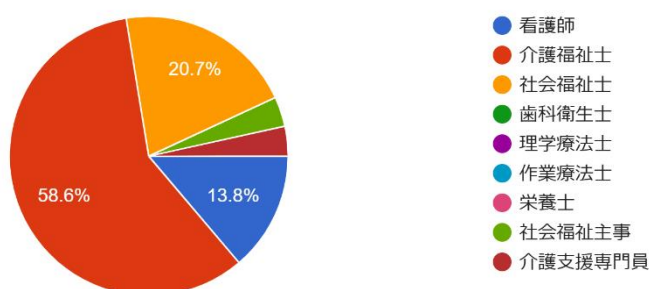
年齢

29件の回答

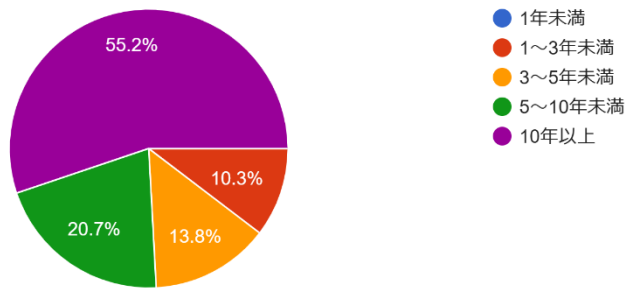


基礎資格

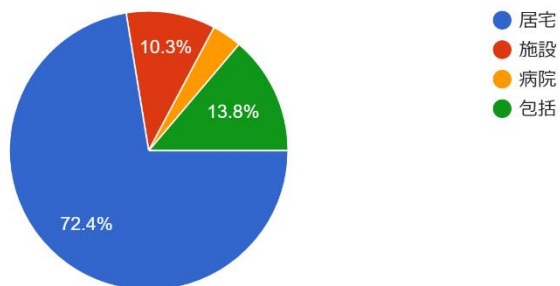
29件の回答



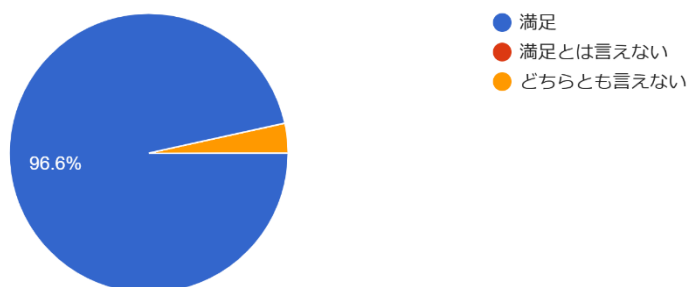
経験年数
29 件の回答



勤務先の事業所種別
29 件の回答

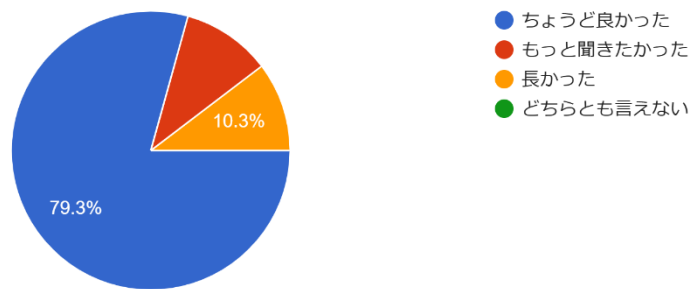


本日の研修内容の満足度
29 件の回答



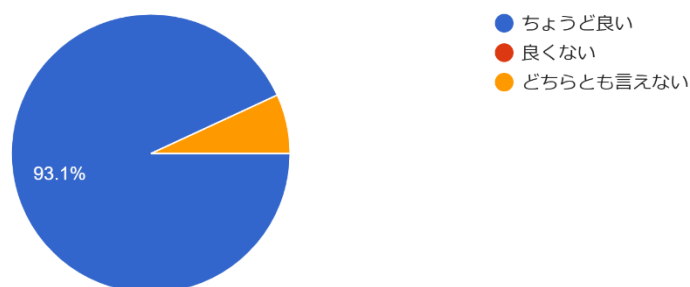
本日の研修時間

29 件の回答



研修日時

29 件の回答



本日の研修内容についての意見や感想をお聞かせ下さい

- ・既に重説等に反映している内容が間違いではないことが再確認できた
- ・指針やマニュアル整備の資料を頂く事ができとても助かりました。
- ・沢山の資料も頂け、即実践に活かしていきたいと思いました
- ・資料が豊富でわかりやすく非常に参考になった
- ・講習の開き方や、資料作成方法等管理者に向けた内容が多く、もっとハラスメントに対する対応方法や、事例を挙げての対応法を聞いてみたかった。
- ・管理者はいろんな分野の知識を持たないといけなくなっています。労務や総務合わせて重要事項で決められた責任者や方針で定められた担当者です。カスタマーハラスメント対応は経験が無いと難しいと思いました。ケアプランで目一杯なのに大変です。
- ・大変、勉強になりました。
- ・ハラスメントへの対応や記録の重要性がわかった。
- ・相談窓口が広がった気持ちになりました
- ・ハラスメントの理解がより詳しくすることができました。
- ・カスタマーハラスメント対策の一つとして事業所全員が統一した対応が大切であること、意向を聞いたからと言って要望に応えられるかどうかはしっかり伝えるべきだと改めて確認した。
- ・ハラスメント防止対策に関する基本方針を見直そうと思いました
- ・研修の中で講師の方が資料を事前に読み込んできているとの話があり、資料が届いていなかったよ

うなので、事前にいただければ研修の受け方も違ったのではないかなと思いました。研修内容は非常に聞きやすく、居宅にポイントを絞った進め方だったのでわかりやすかったです。

- ・最近ハラスメントというワードが当然のように出てきて社会的な問題にもなっている。業務をしている中、私自身や職員の身を守るためにも、貴重な資料まで頂き、ありがたかった。

- ・カスタマーハラスメントの対応について詳しく説明をして頂き勉強になりました。今後、事業所で指針やマニュアルを見直していきたいと思います。

今後の研修で取り上げて欲しいテーマや講師の希望があればお聞かせ下さい。

低所得者が利用できる身元引受人や後見人制度について

カスタマーハラスメントでは実例であったりロールプレイもいいと思います

生活保護関連

BCP や権利擁護・感染症など、法人や事業所単位での研修が必須な部分の代替えができるような研修を開催してもらえるとありがたいです。



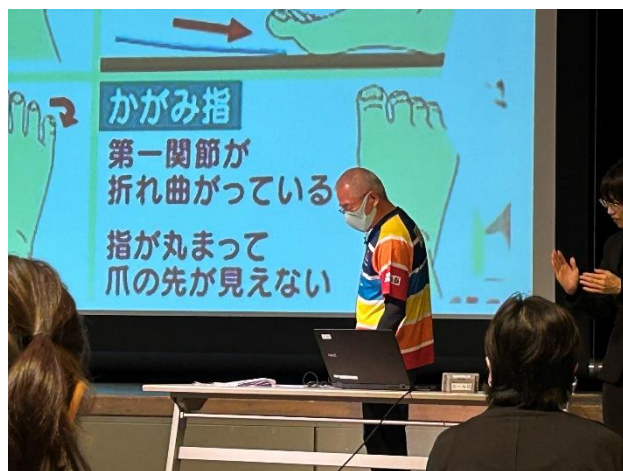
4. 介護の日フェスタ報告

介護の日フェスタ報告書

鳥栖市田代基里地区地域包括支援センター 大石 良美

令和6年11月16日、みやき町市村清メディカルコミュニティセンターにおいて「介護の日相談会」が行われました。会場ではマルシェや雑貨などの即売会などがあり大勢の方が訪れてありました。鳥栖地区介護支援専門員協議会の相談ブースにて介護相談や施設の相談に訪れてありました。

令和6年12月21日、サンメッセ鳥栖にて介護の日フェスタが開催されました。介護の日相談会を実施させて頂き、また様々な関係機関が専用のブースを出され相談会や福祉用具の展示なども踏まえ、寒い日ではありましたが沢山の方に来ていただきました。講演会では西村 猛治氏をお招きしご講演頂きました。楽しい人生を送るために、歩行能力を獲得していくことが基本であり、転倒予防のためのストレッチを実演されたりと充実した内容で勉強になりました。



5. その他(鳥栖三養基薬剤師会より)

「自立支援ケア会議」10年目における薬剤師助言者の問題点の検討

鳥栖三養基薬剤師会 会長 坂上 光弘、理事 菊竹 広隆、松雪 幹一

当地区で自立支援ケア会議が行われて10年を迎える。各市町村で行われているケア会議Aの内容や開催頻度も変化しており、薬剤師助言者も世代交代を迎える時期に来ている。よって、この時期に各市町村や地域包括支援センター及び薬剤師助言者にアンケートを行い、内容や開催頻度また、助言内容に関する意見をまとめた。アンケート期間が短く集計数が少ないため参考として頂きたい。アンケートにご協力頂きました担当者の方に感謝します。

介護保険課、市町村担当者、地域包括支援センターへのアンケート

「自立支援ケア会議(自立会議)に関わるアンケート」

- ① 所属 ② 自立会議に関わってきた年数 年
③ 令和6年度自立会議開催予定回数 回
④ 自立会議で令和6年度特に力を入れている点
⑤ 薬剤師助言内容の満足度

薬剤師の助言内容の満足度	非常に満足	やや満足	何とも言えない	やや不満	不満
1) 発言時の態度					
2) 問いかけの理由が説明できているか					
3) 課題に対してポイントを絞った説明ができているか					
4) 全ての参加者が分かる表現となっているか					
5) 具体的かつ実行可能な助言となっているか					
6) 本人・家族・関係者との共通理解を得やすい助言となっているか					
7) 自立支援の視点に立った助言となっているか					
8) 他の助言者及び参加者との連携ができているか					
9) 地域資源に関する確認・課題提起ができているか					

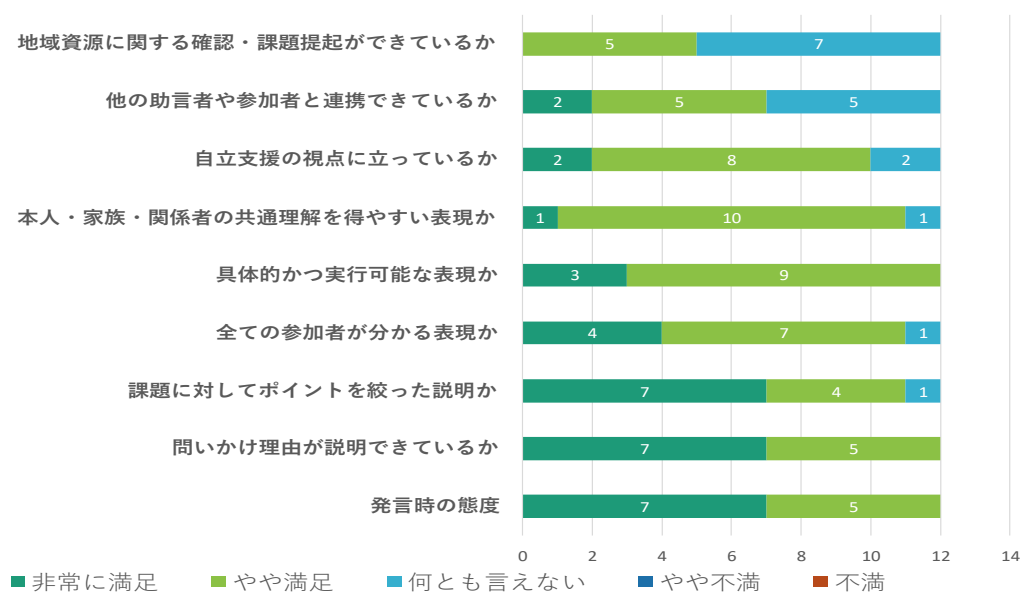
- ⑥ 有効な助言となるよう⑤の1)～9)の中やそれ以外で主な改善点があれば教えてください。

回収：介護保険課 2名、市町村 2名、地域包括支援センター 8名

会議 A市町村 B保険者 令和6年度

	鳥栖市 A	基山町A	みやき町A	上峰町A	鳥栖広域B
開催頻度	4	4	8	2	11
薬剤師助言者数	2	2	6	1	4
力を入れている点	個別事例を通じて地域課題抽出、社会資源発掘・開発。 参加者が発言しやすい雰囲気づくり。アセスメントを細かく行い、血液検査や薬剤情報など書類の準備。助言者：分かりやすい質問・助言。	個別事例を通じて地域課題抽出、社会資源発掘。	個別事例を通じて地域課題抽出、社会資源活用。	親類も遠方、関わる方が誰もいない 独居の方の自立支援。	全体をとりまとめ、課題を明確化し、各助言者より意見を引き出す。

薬剤師による助言内容の満足度（N=12）



薬剤師助言者への要望

- ケアマネに専門性の高い薬剤知識の理解は困難な事もある。利用者の生活に密着する副作用、飲み忘れ、飲み忘れ防止の助言が欲しい。
- 医療との連携で悩んでいるケアマネは多い為、個々の症例について具体的な医師との連携方法についての助言が欲しい。
- 薬剤師による訪問導入のタイミングやメリットなどの助言が欲しい。
- ケアマネにとって既に処方されている薬について、医師への相談や要望はハードルが高いため、現状でのアドバイスが有難い事がある。

まとめ

医療連携（薬）についての具体的なアドバイスが有用。
（「ケアマネ」「かかりつけ薬剤師」「医師」）

ケアマネの基礎資格が福祉職が多い（60%以上）
ため分かりやすい助言が必要。

体の動き、口腔内、食べ合わせなどに関わる薬剤のアドバイスを元にセラピスト、管理栄養士、歯科衛生士と連携し助言の質を上げる。

薬剤師は薬の専門家と共に医療人としての視点と助言を求められる。

薬剤師助言者へのアンケート

「自立支援ケア会議（自立会議）に関わるアンケート」

- ①参加している地区
- ②薬剤師としての勤務年数
- ③自立会議に関わってきた年数
- ④令和6年度自立会議参加予定回数
- 【⑤～⑫はご自身の助言内容についてお書きください】
- ⑤自身の助言内容の満足度
- 1) 満足している 2) やや満足している 3) やや満足していない
- 4) 満足していない
- ⑥設問⑤で1)～4)の選択理由をお書きください
- ⑦心がけていること
- ⑧困った事や障壁になったこと
- ⑨気づいたことや明らかになってきたこと
- ⑩うまくいったと認識していること
- ⑪うまくいかなかったこと、不足していること
- ⑫より有効なものにするため改善したいこと、また希望すること

回収：薬剤師助言者 8名

薬剤師助言者、自身の助言内容の満足度

1. 満足していない、やや満足していない：助言者 7 名/8 名
2. 満足度が低い理由

- ・ 薬剤に関わる助言が必要なケースが多くない。
- ・ アセスメント資料から課題の抽出がしにくいケースがある。
(ケアマネのアセスメントが不十分、自身の課題抽出技術が不十分)
- ・ ケアマネへの助言技術が不十分。（具体的な助言ができていない、医学的知識が未熟等）
- ・ 事例の振り返り、事後のモニタリングが大切。

助言時に困ったこと障壁になったこと

- ・ 最近の検査データや服薬状況、体調などの情報の少ない時は困る。
- ・ 事前に配布された資料から課題が見つからない時。
- ・ 薬に直接関わる問題がないと助言しにくい。
- ・ 事前に読み込んだ対象者のイメージが、ケアマネの説明のイメージと合わない。
- ・ 社会資源の開発・構築が必要なケースは実現困難な事も多く、もどかしい。

自身の助言で不足していること

- ・ 社会資源（介護、福祉）に関する知識不足。
- ・ 対象者がよりよく生活していくための工夫を考える力。
- ・ 疾患や病態の知識、経験が少ない場合があり優先順位が適切でない場合がある。
- ・ 在宅業務の経験が少ないため、イメージができない。
- ・ 多職種の具体的な業務内容の知識が少ないため自立支援に関するチームアプローチが不足。

- ・ 自身の助言で改善したいこと、また希望すること
- ・ ケア会議後の対象者へのアプローチや状況変化を知りたい。
- ・ 現在のアセスメント表に追加
(受診状況 ①定期的な受診を行えているか ②受診時自身の状況を医師に伝えているか
③受診時の同行者 ④受診後、結果や検査データの把握ができるか)
- ・ 同事例を継続的に複数回会議にかけて、自立を支援する試み。

考察

- ・ 自立会議で検討される軽度認定者の抱える課題の半数が廃用症候群の為、「脳卒中」「認知症」「衰弱」「関節疾患」「骨折・転倒」等に薬剤が与える影響を具体的に助言する。
- ・ 多くのケアマネの基礎職は介護職の為、医療や薬剤関係を分かりやすく話す。また医療関係者へのアプローチ方法についての具体的な助言を行う。
- ・ 薬剤師は「薬剤」に関してのみでなく、医療人として生活課題を解決する視点と助言を行う。
- ・ 現在のアセスメント表に「受診状況、内容」「医療との連携状況」「検査項目」等加える。
- ・ 医療職として社会資源（介護、福祉）やサービスに目を向ける。



ちよつとひとこと

鳥栖市中央在宅介護支援センター

石丸 教光

今年の秋は暑い日が続き、秋らしさを感じる間もなく、気づけば寒さが増してきました。本格的に冬の訪れを感じます。

夕方には早く暗くなり、朝は布団から出るのがつらく、年末の大掃除も気が重い——そんな理由から、私は冬があまり好きではありません。

しかし、冬には素敵なこともたくさんあります。空気が澄んでいて美しい星空が見えたり、大晦日やお正月の特別な雰囲気を楽しめたり。そして何より、鍋がおいしい季節です！

最近ではスーパーに行くたび、鍋の種類の豊富さに驚きます。「毎週鍋でもいいかも」と思うほど。おいしい鍋を作るため、道の駅で新鮮な野菜を探すのが楽しみになりました。特に午前中に出かけると、良い野菜を手に入れることができるので、自然と生活も規則正しくなりました。鍋は簡単で栄養満点、しかも食事が楽しくなる素晴らしい料理だと改めて感じています。ビールもつい進んでしまいますね！

寒さ厳しい冬の季節、ケアマネジャーの皆様もお仕事で大変だと思いますが、ぜひ栄養たっぷりの鍋を囲んで健康に冬をお過ごしください。



鳥栖地区広域市町村圏組合介護保険課 <http://www.kttnet.co.jp/tosukaigo>

佐賀県介護保険事業連合会 <http://www.sagadensan.net/skr/>

佐賀県介護サービス情報公開システム <http://www.kaigojouhou-saga.jp/kaigosip/Top.do>

厚生労働省 <http://www.mhlw.go.jp>

WAMNET <http://www.wam.go.jp>

鳥栖地区介護支援専門員協議会 <http://www.tosukaigo.com/>

会報 編集委員 畑田圭介 古賀咲子 森麻美 鳥栖地区広域市町村圏組合

発行責任者 大石良美

発行 鳥栖地区介護支援専門員協議会

事務局 東町わたや薬局